

〈テーマ〉 ワークシートを活用したブロック操作で、自力解決を引き出す取組

【実践の概要】

○問題を捉える

(3個のいちごがあります。) 残りのいちごは、なん個ですか。

① T:ねこは、1個食べました。残りはいくつ? C:式  $3-1=2$

② T:いぬは、2個食べました。残りはいくつ? C:式  $3-2=1$

③ T:うさぎはいちごが大好きで、3個食べました。残りはいくつ? C:式  $3-3=0$

\*①~③:ワークシート上でブロックを操作させて、式と答えを考えさせるようにした。

④ ねずみは、いちごが嫌いので1個も食べませんでした。残りはいくつ?



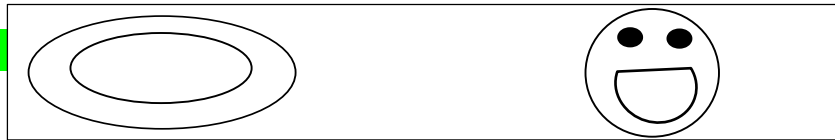
○学習課題をつかむ

1個も食べなかった時は、どんなひき算の式になりますか。

○自力解決に取り組む

\*①~③の段階を踏んで、同じようにワークシート上でブロックを動かしながら、式を考えさせ、答えを出させた。

★活用したワークシート



皿:はじめの数→残りの数  
(被減数→残数)

口の中:食べた数  
(減数)

○みんなで話し合う

C 1個も食べないと口の中に何も入らないから、式は $3-0$ 。ブロックをお皿から動かさないから残りは3個。

学習前

ねらい

学習後

いちごを1個も食べないときの式はどうなるんだろう? 答えは?

言語活動の充実

1個も食べないときは、式に0を使うんだ。式は $3-0$ 。答えは、3個だ。

問題を捉える場面

自力解決の場面

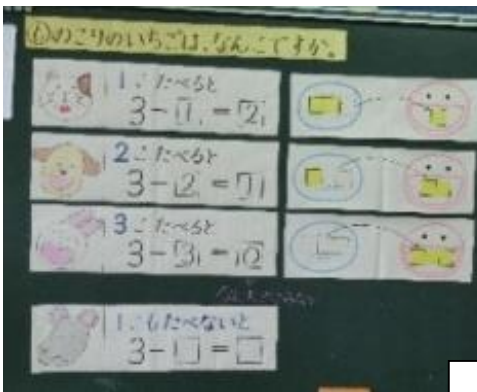
4つの場面を1つずつ区切って提示

ワークシート上でブロックを動かして式を考え、答えを出すことができた。

興味・関心を持って、問題場面をしっかり把握することができた。

1個食べた場合の説明の場面

はじめに3個あって1個食べたので残りは2個なので、式は $3-1=2$ 。答えは2個です。



被減数と減数が捉えやすいようなワークシートを作成し、その上で段階的にブロックを操作させたことで、児童は減数の変化に気付きながら、減数0の場合の式を考え、答えを出すことができた。